



NEWS

2008 No.207

6月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

北海道洞爺湖サミットに向けて注目される温暖化防止対策

「環境(エコ)整備」が顧客をつかむキーワード リサイクル部品もエコ推進のパートナー

6月の環境月間から北海道洞爺湖サミットに向けて、CO₂(二酸化炭素)排出抑制対策が一段とクローズアップされています。さまざまな場面でエコカーが登場し、親しみやすくなりました。

関心が高まっているユーザーに「環境(エコ)整備」をPRする整備業者も増えています。

6月の環境月間の中で、さまざまな環境イベントが行なわれます。自動車最大のイベントは、「エコカーワールド」です。いつもは、神奈川県横浜市の赤レンガ倉庫前広場のイベントですが、北海道洞爺湖サミットがある今年は、5月に兵庫県神戸市でも開催され、地球温暖化防止に対する国民意識の盛り上げを図っています。北海道でもサミット開催を記念した「環境総合展2008」が札幌ドームを会場に開かれました。

7月の北海道洞爺湖サミット本番では、日本自動車工業会が各メーカーのエコカーをそろえ、日本の先進性をアピールするとともに、環境問題を啓発します。自動車は、大きなCO₂排出源のひとつですから、その対応に注目度が高まります。そうしたユーザーに「環境(エコ)整備」を勧めてみてはいかがでしょうか。

話題となる燃料電池自動車のような最先端エコカーは、日常的に乗りまわす環境ではありません。今、乗っている自動車の環境負荷を低減することが、地球温暖化防止には不可欠です。燃費性能を向上した最新型車に乗り換えることも対策のひとつですが、車を製造する際のCO₂発生量を勘案すれば、早期の代替より、乗れる車は大事に乗るほうが環境面では優るのではないのでしょうか。

そのとき、自動車整備の現場では、「環境(エコ)整備」による使用過程車の燃費向上と省エネ運転をお客様に伝授することが、大事になります。後者については、日整連(日本自動車整備振興会連合会)が、JAFメイトのホームページを通じて、運転のテクニックや省エネルギーにつながる運転マ

ナーについて知らせています。

また、前者の「環境(エコ)整備」に関しては、すでにメニュー化してサービス提供している事業者が増えています。その中身は、①エンジン(燃焼室)洗浄②エンジン調整③エコオイルへの交換④タイヤ窒素ガス充填といったことを基本的に行っています。エンジン洗浄は、エンジン燃焼室内部に堆積しているカーボンを除去し、エンジンを新車の状態に戻すことで、CO(一酸化炭素)、HC(炭化水素)の有害な排ガスを除去するとともに燃焼効率を復元します。エンジン調整などを加えれば燃費の復元にもつながり、CO₂排出を抑制、すなわち燃料高騰の中で家計の負担軽減効果も見込めるサービスメニューということです。

とくにエンジン洗浄を中心にしたメニュー化は、エンジン洗浄が、「グリーン購入法」に基づく「特定調達品目」に規定されたことで活発になりました。このことは、国や政府機関が、自動車整備時のエンジン洗浄につい

て、排ガス低減やCO₂削減効果を認め、積極的に利用することにしたもので、エンジン洗浄が環境負荷を低減するものとして公的なお墨付きを得たことを意味します。

グリーン購入法といえば、NGP協同組合が提供しているリサイクル部品も、エンジン洗浄と同様、特定調達品目に規定されています。リサイクル部品の活用もメニューに加えて「環境(エコ)整備」を充実してはいかがでしょうか。とくにリサイクル部品の活用は、CO₂排出抑制につながるということで、NGP協同組合も業界の仲間とともに、リサイクル部品の利用で毎月どのくらいCO₂排出を抑制できたか、そのデータを公表するようにしました(次ページの表参照)。

この数字は、整備事業者をはじめとする皆様の協力で達成できたものです。現在、NGP協同組合は、物流の効率化について研究を進め、リサイクル部品のCO₂低減効果をさらに高めることを検討しています。今後の成果にご期待ください。



温暖化対策の先端技術が、エコカーワールドで勢ぞろい。今、乗っている自動車は「エコ整備」で環境負荷低減を!

日本のCO₂対策 運輸部門の削減はキーポイント

1年間に日本で排出されているCO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量はどれくらいになるのか。5月に環境省が発表した2006年度の確定値が、最新のデータになります。それによると、年間の温室効果ガス排出量は13億4000万t(CO₂換算)で前年度より1.3%減らすことができました。

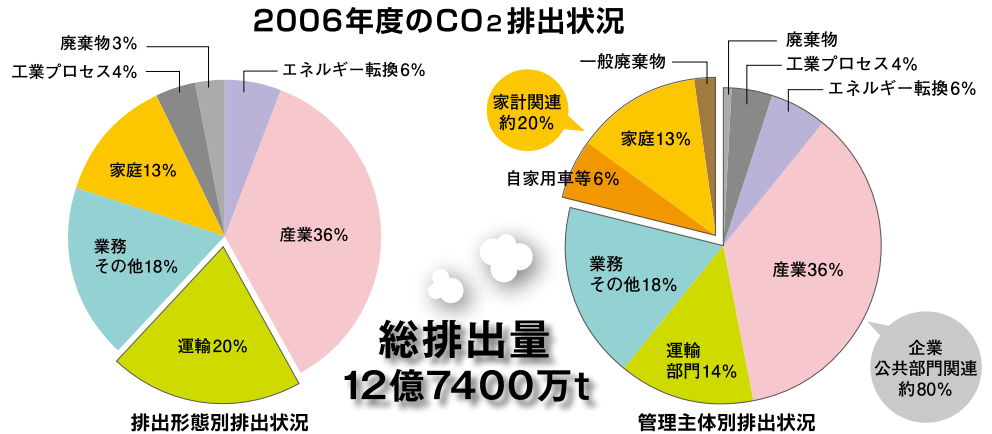
このうち自動車燃料などエネルギーを利用することで発生するCO₂排出量は11億8600万t、エネルギー利用によるもの以外を含めたCO₂総排出量は12億7400万tで、前年度比1.3%減となりました。燃費対策などの取り組みが効果をあげているのですが、京都議定書の基準年(1990年)と比較すると、温室効果ガスの総排出量で6.2%増、温室効果ガスの大半を占めるエネルギー起源のCO₂排出量は12.0%増となっており、さらに省エネの取り組みを加速させる必要があります。

自動車から排出されるCO₂がどうなっ

ているか、その位置付けは図のようになります。エネルギー起源のCO₂排出量を部門別に見ますと、工場などの産業部門からの排出量は4億6000万tで基準年に対して4.6%減になっていますが、①運輸部門2億5400万t、基準年比16.7%増②業務その他部門2億2900万t、同39.5%増③家庭部門1億6600万t、同30.0%

増④エネルギー転換部門(発電所、石油精製所など)7730万t、同13.9%増—となっています。

自動車を効率的に使い、燃費性能を引き出すことは、運輸部門のCO₂排出抑制につながりますし、リサイクル部品を使えばサービスに関連する業務その他部門の排出抑制につながるわけです。



燃費計算の手ほどきでメンテナンス入庫の促進を

ところで燃費向上対策が、整備事業の売り上げに密接に関連することはご存知ですか。

もちろん、合理的な走行ルートを選ぶとか、急加速、急発進をしないとか、ドライバー自身のプランニングや運転技量によるところは大きいのですが、それに加えて自動車の整備状態も燃費を左右するからです。このことは十分に承知しているが、それをどのようにユーザー(お客様)に伝えるかわからない、という人も多いのではないのでしょうか。

そこで提案なのですが、「トリップメーターでマイカーの燃費を計算する」その手法をメッセージカードに書いてお客様に手渡すのはどうでしょうか。自動車にかかわ

ている人ならこうした燃費の計算法は当たり前のことと思いますが、そこが盲点です。乗用車の主運転者は3人に1人は、主婦などの女性です。新しい装置の操作を覚えるのが苦手な高齢ドライバーも増えています。気になるマイカーからのCO₂排出量を計算するにも、燃費計算が基準になります。

燃費計算は〔式1〕。同じ数値を用いて、ガソリンのCO₂排出係数2.3(ディーゼルは2.6)を用いて1km当たりのCO₂排出量を求めます〔式2〕。「2.3」というのはガソリン1リットルを燃焼させると2.3kgのCO₂が排出されることを意味します。ディーゼルの係数が大きいのは、ガソリンに比

べて軽油に含まれる炭素量が多いからです。

〔式1〕、〔式2〕で出てきた答えが悪化しているようなら、運転を改めるか、整備が必要だということです。

メッセージカードの裏には、「ECOドライブのための基本メンテナンス」とのタイトルで、

①タイヤの空気圧・残り溝の確認＝タイヤの空気が減っていると、エンジンの力が路面に伝わりにくくなり、必要以上の燃料を消費します。

②エンジンオイルの点検・交換＝オイルを交換していないと、酸化してオイルの性能が劣化し、エンジンの性能を低下させます。

③エアクリーナーエレメントの交換＝エンジンの効率的な燃焼を維持するためにきれいな空気が必要です。エアクリーナーエレメントは定期的に交換しましょう。

—と書いておいてはどうでしょうか。プロとして分かっていることをエンドユーザーに分かりやすく伝えることが、商売に結びつき、またそれが地球温暖化防止につながるのではないのでしょうか。

あなたの燃費とCO₂排出を計算してみましょう! 🚗

燃費の計算

走行距離 ÷ 給油量 = 燃費 (km/ℓ)……【式1】

二酸化炭素の排出量

給油量 × 2.3 (ガソリン車) ÷ 走行距離 = 排出量 (kg/km)……【式2】

※ディーゼル車は2.6

エヌジービー自動車整備

NGP 今月のCO₂削減量

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成20年4月: 7,079,787kg (全12団体計: 12,797,728kg)

1月からの累計: 28,564,687kg (全12団体計: 53,089,923kg)

黄綬褒章を受章した上松倉人相談役(エコテクノ代表取締役)

「みんなでもらった」褒章であることを実感 業界のために骨身を惜しまず、お手伝いに努めたい

08年春の褒章で上松倉人相談役(中四国支部・エコテクノ(株)代表取締役)が黄綬褒章を受章しました。

上松相談役は、共盛自動車工業(株)の代表であり、また、整備事業者とリサイクル部品業界の橋渡しをしている一人です。

最近はNPO法人『世界』の副会長として、事業者の声を行政に届ける骨折りの任も努めています。

—受章おめでとうございます。感想はいかがですか

「褒賞や勲章を受章した先輩達は必ず、私一人がもらったのではなく、皆様と一緒にもらったものです、とスピーチされていました。その言葉の重みが、今、初めて分かったような気がします。NGP協同組合相談役という立場にいますが、その任にあたることのできるのも、組合員の皆様の支援があってこそのもです」

—今でも要職を兼務し、自動車関連業界のリーダーとして活躍されています

「自分より立派な仕事をしてきた人をたく

さん知っています。代表としての役割を負っている仕事もありますが、プレーンがしっかりしているからこそ、その仕事が成り立っている。受章するのが自分一人ということで、すっきりしないというのが本音です。私が何かを発見し、それで賞をもらえるのなら、自分自身でした仕事だと言えるのですが、今までやってきた仕事はそういう性質のものではなく、いろいろな人に支えられてきました。だから受章のお祝いも身内だけでひっそりと、頂いたお祝いもどこか公的機関に寄付しようと思っています」

—今後の抱負を聞かせてください

「NPO法人『世界』の副会長・自動車問題対策委員会委員長として、車両法の関連で行政にお願いしたり、外国人労働者の就労期限延長についての要望を行ってきました。これから自動車リサイクル法の見直しがあります。お手伝いできることを体力が続く限り、取り組んで行きたいと考えています」

—幅広い視点や経験から、アドバイスをお願いします

「資源の高騰で利益が出ている仲間が多いはず。利益が出ているうちに環境対策や従業員の福利厚生を充実させてもらいたい。企業規模は小さくても環境対策はしっかりできて、従業員の福利厚生も充実し、大企業と肩を並べられるのは素晴らしいことですし、さらに社会的地位も上がります。すべての面で一流だといわれるだけの企業態勢を整備したほうがよいし、その時期を迎えていると思っています」



上松 倉人(うえまつ・くらと)
1943年1月生まれ。
事業とともにNPO『世界』の副会長として自動車業界の発展に尽力中

JAPRA会員向けシステム講習会を開催



JAPRA加盟各社のフロントマンが参加、売上向上につなげようと真剣な取り組みとなった

NGP協同組合は、5月10、11日の2日間、NGPシステム導入を希望するJAPRA(日本自動車リサイクル部品販売団体協議会)加盟の事業者を対象に、講習会を東京・品川の協同組合本部で実施しました。講習会には、JAPRA加盟12社12人が参加し、NGP協同組合が初級フロントマン研修で使用しているテキストを使用して、システム運

用のルール、商品定義といったシステム利用の基礎知識を学び、その後、パソコンを使って立ち上げからシステム利用までの実践的研修に取り組みました。

NGP協同組合は、JAPRAシステムとの相互利用を進め、NGPシステムからも部品検索ができるようシステム開放しています。第2陣として利用を希望し講習会に参加

した12社を加えると、JAPRAに加盟する他団体事業者計24社がNGPシステムを導入し、利用することになります。

講習会の冒頭、NGP協同組合を代表して宮地康弘専務理事が、「NGPシステムの利用で受注したリサイクル部品のヒット率を上げ、収益向上に役立ててください」などとあいさつし、積極的な利用を勧めました。これまでの利用状況をみると、「JAPRA会員の皆様には、NGPシステムを効率的に使っていただいています」(宮地専務)

昨今、良質な部品取り車両が手に入りやすく、リサイクル部品の在庫が思うように充実できなくなっています。こうした状況を乗り越え、リサイクル部品の流通を活発化するため、システムの相互利用を進めています。

さらにユーザーを啓蒙するためにNGP協同組合は、JAPRAとともにリサイクル部品利用によるCO₂排出削減値を公表、エンドユーザーに対して、温暖化防止を訴えながらリサイクル部品の啓蒙を進めているところです。

第16回基礎研修会を実施

95人にNGPマンの息吹を吹き込む



体験するのは初めてという人が多い団体訓練。苦しさ乗り越えて、一回り、人間が成長できる

NGP協同組合は4月18～21日まで3泊4日の日程で、東京・新木場のBumB東京スポーツ文化館を会場に第16回基礎研修会を実施しました。新入社員を対象にNGPマンとしての精神鍛錬と社会人としてのモラル徹底を目的にした基礎研修会に全国の組合員から95人が参加、集団生活を行いながらNGPマンの基本的精神を学びました。

団体行動をベースにした研修会は、自薦、他薦で班長を選びます。3班の班長になった

しのぶや(栃木県)の渡辺弥寿往さんは、「始めは面倒な役を買って出てしまった」と思ったそうですが、終わってみれば「本当によかった」と思ったそうです。「今日無事に試験に合格することができました。講師の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。同じ班の人、みんなの協力に感謝しています。班長に協力してくれてありがとう。不器用な自分に付いてきてくれて本当にありがとう」と話しています。

反省点もあります。渡辺さんは、試験に合格できないのは班長の責任だと思い、練習、練習と試験に合格することばかりを考えていたそうです。その結果、班の仲間が「体調が悪くなっていることに気付かず、練習で寝込むことになって、本当にすみません。班長としての気配りがな

かったからだと思います。これからもっと思いやりや気配りのできる人間になっていこうと思います。こうした思いに到達したのも、集団で訓練に臨み、その中で班長として重責を担ったからで、これから基礎研修に参加する人に、「班長を買って出てやれ、いい経験ができるから」と渡辺さんはアドバイスし、感想文の最後を結んでいます。

ユーパーツ練馬店(東京都)の保田博美さんは「自分さえ良ければという気持ちを捨て、仲間意識が持てるようになりました」と言います。またエコブリッジ(青森県)の中川原毅さんは「最後の最後に全員の魂がひとつになり、感動とともに心が開放されて軽くなった」と感じたそうです。それぞれ1歩ずつ成長して、研修会場を後にしました。



最後は達成感で充実し、参加者全員が晴れやかな顔。感謝の気持ちでいっぱいになる

中国・寧夏自治区から自動車リサイクル調査団

マルトシ青木など視察、NGP協同組合と交流

中国・寧夏回族自治区自動車リサイクル調査団が、5月8～11日まで日本を訪れ、NGP協同組合関連の事業所を視察しました。寧夏



マルトシ青木の工場を視察する中国からの調査団

自治区は中国・黄河中域に位置する回教徒の自治区で、NGP協同組合はNPO法人世界の仲介で、同地区の行政、リサイクル業者と交流してきました。

来日した調査団は、馬継廷・寧夏自治区協同組合理事会副主任を団長とした、行政関係者4人、事業者の2人の一行で、静岡県藤枝市のマルトシ青木のほか、北陸地区の事業所およびシュレッダー工場を視察しました。

マルトシ青木では、本部からも宮地康弘専務らが駆けつけ、ネットワークでリサイクル部品事業を行っているNGP協同組合の取り

組みを説明し、意見を交換しました。中国側はNGP協同組合が行っているリサイクル部品の生産・販

売などに高い関心を寄せています。人材育成や技術支援などの面で日本企業への期待は高く、青木勝幸会長は「現状で何ができるのかを考えながら、情報交換を重ね、信頼関係を築いていきたい」と話しています。



リサイクル部品流通のシステム運営に関心は高かった

第2回「ベース車を当てようクイズ」正解&当選者発表!!



協力：日本自動車大学の皆さん

写真のカスタマイズ車のベースカーは？

正解は三菱自動車「パジェロ」でした。



プレゼント
当選者発表!!

神奈川県藤沢市 越田大樹さん
愛知県一宮市 祖父江正典さん
岡山県瀬戸内市 近藤武徳さん

たくさんのご応募
ありがとうございました!

※当選された方には、(株)NGPよりプレゼントをお送りいたします。商品の発送にはお時間がかかる場合もございます。あらかじめご了承ください。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201